

同窓会について

長岡技術科学大学名誉教授 福田 雅夫



私は大学紛争でキャンパスが荒れた直後で入学式も卒業式もなかった世で、新潟に住むようになってから卒業した高校や大学のある東京までの旅費を工面してまで同窓会に参加する意欲が湧きませんでした。1991年に長岡技術科学大学(技大)に教員として赴任して以来、技大の同窓会との接点はほとんどありませんでした。2013年のクアラルンプールでのマレーシア同窓会や2014年のハノイでのベトナム同窓会にたまたま出席する機会がありましたが、私の所属する生物系出身の卒業生はおらず、集まった同窓生の喜びを共感しないままで終わりました。そして2017年3月に定年退職を迎えることになりましたが、ありがたいことに研究室のスタッフらが記念講演やパーティーを組織してくれ、15名の現役学生に加えて70名を超えるOB・OGが参加してくれました。参加したOB・OGが同期を中心に集まって近況を披露しあったり、昔話で盛り上がっているのを見て、卒業・修了して離ればなれになった同窓生が集まることの意義を大いに実感しました。博士26名を含む多くの学生が巣立っていきましたが、学生達は研究室やキャンパスや長岡での生活と時間を共有して強いきずなを築き上げていたことを改めて認識し、そのきずなの接着剤として私が役立っていることにうれしくなりました。

技大を退職した後の5年間は、愛知県春日井市にある中部大学に勤務しました。中部大学は1964年に中部工業大学として創設され、1984年に中部大学に名称変更した私立大学で、工学部・応用生物学部・生命健康科学部を含む理系3学部と経営情報学部・国際関係学部・人文学部・現代教育学部を含む文系4学部の計7学部からなる学生数約11,100名余りの総合大学です。私が所属した応用生物学部は学生数約1,500名で、応用生物化学科・環境生物科学科・食品栄養科学科の3学科を含みますが、大学院生は全学生の5%にすぎないことと学部学生の4割が女子学生であることが技大との大きな違いです。この応用生物学部で学部長を3年間務め、評議会や学部長会議を含む各種委員会、入学式や卒業・修了式等の一般行事、年二回の「父母との集い」や「オープンキャンパス」における学部の現状説明や紹介、同窓会総会や後援企業等が集まる「幸友会」などに、ほぼ強制的に駆り出されました。愛知県は東京、大阪に次いで大学が多いため競争が厳しく、ほとんどの学生が自宅から通学しているため、中部大学では保護者への対応に非常に神経を使っています。学部ごとに数名の保護者を幹事に選んで保護者会を組織し、学部教員との意見交換を行なう保護者総会を開催したり、「父母との集い」に集まった保護者に学部のカリキュラムや就職状況を説明した上で学部の施設や研究室を見学してもらい、さらには希望する保護者と指導教員が面談して質疑に応じるようにしていました。

中部大学の紹介が長くなりましたが、同窓会に話を戻します。私が中部大学に赴任すると東海三県(愛知県・岐阜県・三重県)で働いている技大OBが次々と訪ねてきてくれ、私を気にかけてくれたことに大いに感激しました。やがてOB会を名古屋で開き、LINEグループで連絡を取り合うようになり、定期的に集まるようになりました。一方、中部大学の同窓会は技大に比べるとはるかに強力で、同窓会育英奨学金の提供や課外活動等で優れた成果を上げた学生の表彰と報奨金の授与を行なうほか、各学部の卒業記念パーティーの会場費の支援までします。以下、技大に参考になることがあるのではないかと思いますので、中部大学の事情をさらに述べさせていただきます。中部大学の同窓会費は終身で5万円ですが、実は在学中に学費に加えて納入すべき経費にリストされており、入学時に2万円、以降は年度初めに1万円納めるようになっており、

これが活動の資金源になります。学部4年生になって終身会費を納め終わると、成績証明書や卒業証明書などの発行手数料と送料を同窓会が負担してくれ、メリットが出てきます。同窓会には東京や新潟、北海道を含む15の支部がありますが、愛知・静岡・岐阜・三重に8支部が集中しています。また同窓会とは別に、同窓生が働く企業が集まって「幸友会」が組織されています。「幸友会」は産官学連携事業や就職支援事業などを目的としており、800を超える法人が会員となっており、400名近い個人会員もいます。「幸友会」の年会費は法人が2万円、個人が3千円で、企業が興味を持つ講演者を招いたセミナーと教員との交流をセットにした総会を毎年開催するとともに、会員法人を対象に採用情報を提供する就職情報冊子を作成して就活学生に配布しています。大学では会員法人を含む就活フェアを学内で開催しており、「幸友会」は同窓生が働く企業に卒業生を送り込む太いパイプとなっています。人口1人あたりの県内総生産=GDPが東京に次ぐ2位でトヨタを始め多くの企業がある愛知県は就職が容易なはずですが、「幸友会」はより多くの企業を就活フェアに呼び込む呼び水として就活をサポートしています。

昨年3月に中部大学を退職して新潟に戻ったところ、本学の山口隆司教授から特任教授の話をいただきました。科学技術振興機構(JST)と国際協力機構(JICA)が共同で実施している地球規模課題対応国際科学技術協働プログラム(SATREPS)に山口教授を研究代表者として採択されたベトナム・ハノイ工科大学との国際共同研究「天然ゴムを用いるグローバル炭素循環プロセスの科学技術イノベーション」をサポートする役目です。同プロジェクトの前身となるハノイ工科大学とのSATREPSプロジェクト「天然ゴムを用いる炭素循環システムの構築」の研究代表者を私が務めたのが縁で、その経験を活かしつつ、本学の活動を精一杯サポートしたいと思っています。特任教授は週1回の勤務ですが技大に戻ったおかげで、昨年9月に開催された「同窓の集い」に参加させて頂きました。久しく会ってなかった教え子と会え、産業技術総合研究所の渡利先生や新潟県庁の瀬戸員枝さんとも親しく話させていただき、楽しい時を過ごさせていただきました。同窓会の意義を確かめ、技大とのきずなを強く意識する機会になりました。中部大学の同窓会は各支部で独自の活動がされています。全国に散らばっている同窓生に向けて、各地で「同窓の集い」を開催していただければと思う次第です。一方、就活で東京などに遠征して苦労していた教え子を思い出すと、中部大学のように同窓会をさらに活かす工夫があっても良いのではと感じました。



「第11回 復活！開学記念マラソン大会」を開催

大会報告

同窓会常務理事 芳賀 仁 (2004年 エネルギー・環境工学専攻修了)

第11回復活！開学記念マラソン大会を開学記念日に合わせて令和4年10月1日(土)に行いました。例年、最大300人を想定して参加記念品やゼッケンなどを準備していますが、今回は想定を超える約390名の参加申込でした。運営スタッフは嬉しい悲鳴を上げつつも、そこは「押忍」で前向きに楽しく準備できたようです。(我々、運営スタッフ陣営にも「押忍」が浸透してきました。)地域からは138名の参加があり、技大同窓会の枠を越えた地域交流イベントとしてすっかり定着しています。マラソン競技は親子参加、小学生を対象にした2kmコース。学生、一般向けの5km、10kmコースをそれぞれ技大周辺に設けて実施しました。当日は、鎌土学長にお越し頂き、スターター号砲のもとコース毎にスタートしました。マラソン大会を通じて、同窓会と在学生、教職員、旧教職員そして地域の方々との交流と親睦を大いに深められたと思います。次回はコロナ禍の状況にもよりますが懇親会も復活できるかもしれません。卒業生の皆様も是非ともお越しください。

次回(第12回)は9月30日(土)に実施します！



参加人数:
・スタッフ 81名
・ランナー 2km 103名
5km 87名
10km 119名

大会成績:
2km
1位 島津 祐我(小6) 8' 27"
2位 西方 彩花(小4) 8' 32"
3位 山崎 稜平(小4) 8' 33"

5km 男子
1位 鈴木 康平(地域) 15' 28" (大会新)
2位 西方 大地(地域) 16' 21"
3位 中脇 匠悟(B3) 16' 27"

5km 女子
1位 太刀川 真白(中2) 23' 17"
2位 杉原 桃香(地域) 23' 27"
3位 八木 香織(地域) 26' 09"

10km 男子
1位 柳澤 貫太(地域) 32' 48"
2位 長谷川 聡一(M1) 33' 06"
3位 斎藤 和樹(M1) 34' 22"

10km 女子
1位 大野 彩佳(地域) 40' 28" (大会新)
2位 武藤 咲希(地域) 41' 17"
3位 伊丹 敬子(地域) 46' 23"

今後の開催予定

9月30日(土) 第12回 復活！開学記念マラソン大会

※詳細が決まり次第ホームページに掲載します。

自分と戦う：前より、前へ！

基盤共通教育系 **ドライアー ブライアン**

「技大マラソンは、楽しかった？」

「うん、楽しかった。」

「感想は？」

「あの、最初の方は疲れちゃったけど、最後まで頑張ってきた。」

「一番良かった事は？」

「一番良かった事は、金メダルを貰った事。そして友達が来た。」

この間技大マラソン2022に参加しました。前のマラソンにも参加しました(2020年に7位・2021年に6位)が、いつも一人で10キロを走った。今回は、初めて息子の留維と2キロを走った。

留維は最近ランニングに興味を見せた。「パパぐらい早く走るようになる？」「今日学校マラソンの練習で5位だった！」時々私みたいに急に走る事もあった

(53歳で)始めてからランニングはずっと一人でやることでしたが。。

やっぱり親子の絆も強くなる、深めるチャンスだと思った。その前留維に自分のプレスレットに似ているプレスレットを買ってあげた。「力を合わせて走ろう」と言った。当日は、そうしました。

その朝、技大へ行く前に初めて2キロを実際に一緒に走りました。11分30秒でした。「じゃ、目標は、これよりいいタイムだね。」「10分！」

その調子で会場に歩きました。あつという間着いた。人が大分多かった。子供達もいっぱい。ゆっくりと体育館で待機しました。もらったバナナやスポーツドリンクをいただきながら。。

やっと開始時間。手を繋いで用意した。「スタート！」

走りながらアドバイスをあげた。最近自分が時々ダッシュするようにしている、10キロのランニングの中、次の木まで、あの交差点までなどなど。この日も、留維と時々ダッシュした。留維は、大変だったけど頑張った。ラストスパートで私は留維を引っ張って走った。「嫌だ嫌だ」と言いながら留維が走った。

「10分02秒」。留維はよく頑張った！「今度の目標は10分を切るね。」「うん。」「。。」

今年、私は還暦になります。もっと強くなる。もっと積極的に行動する。意見をもっとハッキリと言う。いろいろよくなるきっかけになるようにと思っています。前より、前へ！

娘と参加！ やっぱり走るのって楽しい!!

入試課 **大野 順広**

普段、碌に話もしない娘ですが、むかしから逃げ足だけは速く、最近はずっと追い付いていけない。そんな娘を誘って、今回は「娘に勝つこと」を目標に、第11回「復活！開学記念マラソン大会」に参加させていただきました。コロナ禍でさまざまな大会が中止や延期されるなか、みんなで走れるこの大会をどれだけ楽しみにしていたことか…。大会に関わってくださった関係者の皆様、レースを支えてくださったボランティアの皆様、本当にありがとうございました。大会はおおいに盛り上がり、最高の雰囲気でした。

いよいよスタート、私にとっては長丁場の10キロ、日々の練習は夕食後のウォーキングのみ、強烈なアップダウンのコース、日頃の運動不足で減入っていると謙土学長に声をかけていただき元気をもらい、沿道のスタッフの皆さんからも「がんばれ〜」、「あともう少しです」などと暖かい声援をいただき、後半の苦しい上り坂のときは、地元のおねえ様方からも「ほらお兄ちゃん歩いてねーで走れ！」と激励していただき、終始、活気と笑顔に溢れていました。

結果は、娘から13分31秒遅れてのフィニッシュとなってしまいました、時計を気にせずたくさんのみなさんと楽しめたので大満足です。当初に掲げた目標は次回に持ち越しとなりましたが、やっぱり走るのって楽しい。そんな気持ちにさせてくれる大会でした。

技大マラソンを終えて

地域参加 **鈴木 康平**

今回、2022年の技大マラソンに参加させていただきました。私の姉が現在、技大に在籍しており、その姉から技大マラソンの案内があり、「走ってみないか？」と言われ、私自身、学生時代は陸上競技部で長距離を専門に活動していて、走ることに自信があったので、大会に参加しようと思いました。

技大マラソンでは、5kmの部に出場しました。その日は天候も良く、コンディションにも恵まれ、とても走りやすい条件の中で大会に臨むことができました。5kmの部のコースは、来た道を折り返す、マラソン大会ではよくあるコース内容でしたが、行きは2.5kmは上り坂で、上手にペース配分をしなければならず、そこが一番難しいポイントでした。他のランナーは、信号機手前のコースで最も勾配のある所で失速して、そこからは私が先頭に立ち、レースを進めていきました。前にランナーがいない分、自分のペースで走ることができたので、身体的にも精神的にも余裕を持って走ることができました。折り返してからの下り坂では、自然とスピードが出て、体力を使わなくても速いペースで走ることができました。途中、後続のランナーとすれ違う場面があり、そのランナーの折り返し地点までの距離と私が折り返し地点から走ってきた距離を考えて、その時点で私は優勝を確信しました。途中、信号機に止められるというアクシデントもありましたが、追いつかれることなくゴールすることができました。

結果としては、大会新記録で優勝することができ、レース内容としても私のプラン通りに走ることができたので、とても満足しています。2023年に技大マラソンが開催されたら、今度は10kmの部に出場しようと考えているので、しっかり走り込んで次の大会に臨みたいです。

今回の技大マラソンで、改めて走ることの楽しさを感じることができました。新型コロナウイルスの影響で大会自体を開催することが困難な状況でも、このようにマラソン大会を開催していただき、大会を運営して下さった大学の関係者の方々及び協賛企業に感謝をしております。技大マラソンだけではなく、どの大会においても多くの支えがあって開催されているので、そういった方々への感謝の気持ちを忘れずにこれからも多くの大会に臨みたいです。

レースの振り返り

長岡技術科学大学 **長谷川 聡一**

(量子・原子力統合分野 修士1年)

皆様こんにちは。量子・原子力統合工学分野、修士課程1年の長谷川聡一です。この度、「第11回 復活！開学記念マラソン大会」(技大マラソン)に参加した感想について執筆する機会をいただいたので、レースの振り返りをさせていただきます。

私が技大マラソンに参加するのは今回で4回目でした。過去3度はいずれも10キロの部に出場し、いつも2番でした。そろそろ1番を取りたいと考えていたため、過去のレースを振り返り、敗因を分析しました。すると、いずれも後半の上り坂のどこかで差をつけられて負けていることが分かりました。元々上りは苦手だったため、第11回大会に向けて上りの練習を3か月ほど行いました。その結果、技大マラソンのコースの試走を行った際、前回よりも速く上れることが確認できました。しかしそれでも上り坂への不安が残っていたため、レース本番は前半である程度突っ込んで入って、自分が得意な下りで差をつけ、その差をキープするように後半の上りで耐えて逃げ切るという作戦を立ててレースに臨みました。

技大マラソンの当日は過去3回と比べると気温が高く、良く晴れた日でした。気温が高いと体力の消耗も激しくなるため、上記の先行逃げ切りの作戦で後半まで体力が持つのかという不安がありましたが、練習が積めていて自信があったため変更せずに行くことに決めました。

ウォーミングアップを終えてスタート地点に整列し、10時ちょうどにスタートの合図が鳴りました。それと同時に飛び出し、1キロを通過した地点では2位以下に5秒ほど差をつけることができました。この調子でもっと差をつけて逃げ切つてやる、そう思っていたのですが、2.5キロ地点で追って来た1人に追いつかれました。そこから2キロほど並走しましたが、ペースの揺さぶりに耐えられなくなり、離されてしまいました。結果そこで離されてからじわじわと差をつけられ、また2番となりました。

今回の技大マラソンを経て、上りへの対策やレースプランを考える前に、ペース変動に耐えられるような土台となる持久力を身につける必要があると再認識させられました。上記に加えて自分の弱点を再度分析し、強化できるよう練習し、また参加する機会があれば次回の技大マラソンでは勝つて終わるようにしたいです。

最後になりますが、技大マラソンを開催、運営して下さった皆様、本当にありがとうございました。

同窓の集い開催報告

あの日覗いた世界への挑戦

長岡技術科学大学 高橋 優花 (物質生物学分野 修士1年)

人の目に映らない世界の中で、人と同じく、生と死が織りなす数えきれないほどの生命の営みがある。中学生の私にとって、理科で覗いた顕微鏡の中の世界は、この事実をあまりにも素直に教えてくれた。小さな生き物のもつ大きな可能性を知りたい。中学生の私がこの時抱いた夢は、今なお変わることはない。

微生物の世界は、その約99.98%が今なお未知に包まれている。これは、微生物のもつ可能性のわずか1%にも、人間は届いていないということになる。微生物は、目に見えない小さな生き物だ。しかし、もしその種ですら、この世界に必然として生まれた生命であるならば、その小さな体に、一体どれほどの可能性と未来が詰め込まれているのか、今の私には想像もつかない。だからこそ私は、知見を深め、さらなる見識を得たうえで、この未知の世界に挑戦したいと思った。

私は今、本学大学院の発酵科学研究室に所属し、微生物の一種である油脂生産酵母についての研究を進めている。今はまだ見識も浅く、毎日が分からないことの連続である。それでも、多くの方々の支えの中で研究を進める日々は、大変ながらも非常に楽しく、充実している。そんな中、修士1年目も残りわずかととなり、自らの進路について考える時期となった。私は現在、本学博士課程への進学を考えている。それは、中学生の頃から抱き続けてきたこの夢を、真剣に追いかけてみたいと強く感じたからだ。一方で、今の私に博士課程へ進学できるほどの実力が備わっているのか、仮に進学できたとしても、本当についていけるのか等、たくさんの不安に悩んでいる。その折、本学で「同窓の集い2022」が開催されることを知り、各先輩方からご意見をい

ただく中で、新たな視点を獲得、自分の進路を考える機会になればと思い、参加させていただいた。

実際に参加してみて、私は多くの貴重なご意見をいただくことができた。各先輩方が、学生時代の研究生活から現在に至るまで、どのような学びや機会があり、今何を考えられていられるのか等、自らの進路や悩みと重ねて、教訓や新しい見識を得ることができた。中でも特に、先輩方ごとに、バックグラウンドは多様でありながらも、変わらないことがあると感じた。それは、どの先輩方も、自らの責任で考え、失敗に臆することなく挑戦し、不断の努力を重ねた先に今を創ってこられたということであった。この先の進路に悩んでいた私にとって、この機会は非常に有意義で、各先輩方に心からの敬意を感じた。

未知を既知に変えることは想像を絶するほどに難しいし、苦しいのだと思う。しかし、だからこそ、その先に大きな可能性をつかみ取れるのだと信じている。そしてこれを叶えるためには、諸先輩方のように、不断の努力と覚悟が必要なのだとは思う。今回いただいた機会をもとに、今後は研鑽を積み続け、中学生の頃に覗いた世界の1%の可能性をも開ける日を夢見て、先輩方の背中を追いかけ努力したいと強く思う。



同窓の集い2022にて
(左から上村准教授、渡利氏、筆者)

同窓の集いにあたって

長岡技術科学大学同窓会 坂田 健太

令和元年11月に第1期卒業生から声が上がった同窓の集いは、令和4年9月10日(土)に第2回が開催されました。会場は母校所在地である長岡市にあるニューオータニ長岡となりました。本会の参加者は、鎌土学長、名誉教授、卒業生で37名となりました。会場ではビュッフェ形式による食事と、同窓会で用意した新潟県地酒「村祐、鶴齢、越の鶴」などを一升瓶で20本程度を用意しました(写真1)。たくさんの銘酒の品揃えで、参加者の皆様は、飲み比べをしたり、お気に入りの日本酒を飲み交わしたりと、充実されているような面持ちでした。

鎌土学長からの御挨拶と乾杯の御発声から始まり、名誉教授の方々の昔話を拝聴しました。卒業生も交えた昔話は、当時の先生方の血気方剛な活動が窺うことができ、興味深く感じました(写真2)。

本会が進むと、皆様の歓談の時間となり、懐かしむ顔を酒の肴のようにして、お酒が進んでいました。石崎幸三名誉教授や福田雅夫名誉教授のお話も拝聴することができました(写真3)。

同窓会というと、自分の卒業年にちかい世代を集めての会という概念をもっていました。幅広い世代を超えた縦での繋がりで、どのような学生生活を送ってきたのか、卒業後のお仕事の内容などを聞かせて頂きました。卒業後のどのようなお仕事をなされているか、如何にして仕事を進めているのかなど、興味深く拝聴することができました。



写真1 用意した日本酒

私は平成14年に環境システム工学を修了しました。その後同窓会の理事を務めさせてもらっています。令和元年に第1回を開催していることから、今回の同窓の集いでは、会場設定、式次第、参加者の募集等、スムーズに進めていくことができました。大学基金・卒業生室の皆様、同窓会スタッフの皆様、本当にお世話になりました。

同窓会理事として、今回が2回目ですが、同窓の集いを開催するたびに、先輩方と先生方のバイタリティーに圧倒させられています。今後同窓会としては、このような会を企画し、同窓生同士での繋がりの場を多くでも提供していければと、私見ながら感じております。そこには機械、電気、建設、物質材料、情報など各系の垣根を越えた繋がりが達成できると、同窓会の価値が深まると感じています。

同窓の集いでは、名誉教授を中心に、教授の教え子が集まって楽しむ会となっています。今後も積極的に開催していく予定です。研究室でのレジェンド的な卒業生も参加されていますので、たくさんのご参加をお待ちしております。今後の開催につきまして、同窓会ホームページ内で随時更新していく予定です。



写真2 参加者写真



写真3 石崎先生のお話

今後の同窓会
開催予定

11月25日(土) 第3回 同窓の集い(大阪開催)

※詳細が決まり次第ホームページに掲載します。

ホームカミングディ2022

開催報告と所感

同窓会理事 **上村 直史** (生物統合工学専攻 平成23年3月修了)

令和4年9月10日、長岡技術科学大学のホームカミングディ2022が同窓会および名誉教授懇談会との共催で開催されました。新型コロナウイルス感染症の拡大予防の観点から2018年の開催を最後に、実に4年ぶりの開催です。長岡技術科学大学のホームカミングディ自体をご存じない同窓生も多いと思いますので、初耳という方は「長岡技術科学大学 ホームカミングディ」で検索を。このイベントは、大学の第1期生の60歳定年退職が近づく頃合いに大学と卒業生・修了生の結びつきを強化・再形成することをねらう方策(校友会設置など)の一環として2017年に初めて開催されました(校友会も初耳というかたは…検索を)。ホームカミングディは2017年、2018年と手探りで開催され、2022年に再始動という位置づけになります。

ホームカミングディ2022は、大学マルチメディアシステム棟で対面、Zoom・YouTubeでオンライン同時配信という、いわゆるハイブリッド形式で開催されました。メインイベントは特別講演会とパネルトークです。特別講演会は、荻野 司 氏(電子機器工学専攻5期生)から「技術者から経営者へ！人生3毛作から4毛作へ」という、先端情報技術者から経営者になっていった経歴を、渡利 広司 氏(創造設計工学専攻6期生)からは、「長岡技術科学大学を卒業して本当に良かった！」と題し、本学博士課程での大変な努力と産総研でのご活躍についてご講演いただきました。パネルトークでは、鎌土学長、丸山 久一 名誉教授懇談、修了生のペニャフロア氏(長岡高専特命助教)、在

学生の川本里美氏(社会人博士後期課程)、そして同窓会理事のわたくしがパネリストとして参加し、大学への感謝や将来への期待・希望など様々な思いができました。私からは学生時代の紹介から、最近の同窓会活動の説明やトピックス、そして最後に最も重要な「同窓の集い2022」の告知をいたしました。同窓の集いについても本同窓会報に特集されておりますのでご覧ください。



ホームカミングディ2022@対面開催の様子

人生二度目の長岡技大生活

ナミックス株式会社 **川本 里美** (材料工学専攻 平成10年度修了)

1999年3月の卒業式、自分が再び技大生として研究する日が来るとは思ってもみなかった。。。

2021年4月から、博士号取得のため、社会人として会社勤めをしながら長岡技大で研究をする生活が始まりました。お世辞にも真面目とは言い難い学生だった私ですが、企業での研究開発、海外赴任経験を経て、且つ研究室同窓会での竹中先生のお言葉をきっかけに博士号取得へ挑戦することを決定し、今に至っております。業務と並行しての研究なので月に数回の頻度の登校ですが、日頃と異なる実験を行うことは「脳の活性化にも効果が期待できるのでは!？」と、楽しむことも心掛けるようにしています。一方で、久方ぶりの合成実験に四苦八苦していることも事実です。心の底から「学生の時にもっと勉強しておけば。。。」との悔恨も。まあ、「もっと勉強してたら今の自分はいないっしょ!」との前向きな考えも忘れません。



思っても見なかった時
一学部4年卒業式で恩師竹中先生と一
(筆者：左)

そんな中、9月に開催されたホームカミングディのパネラーとしてお声がけ頂きました。錚々たるメンバーの中で恐縮至極でしたが、普段聴講する機会のないお話を伺うことが出来、非常に充実した経験となりました。お声掛け頂いた高橋先生には深く御礼申し上げます。

当会では「卒業生及び在校生として思う雑感」というタイトルで“大学”と“学位”について個人的に思うことをお話をさせて頂きました。学生時代は学位取得にモチベーションを持つことが出来ず部で卒業したという経緯から、そんな私が何故博士号取得を目指すこととなったのか、そしてそれらの経験から今の学生の皆さんへお伝えしたいメッセージを中心にお話ししました。若干話すことに盛り上がり、予定時間を超過してしまったこと、深くお詫び致します。。。

二度目の学生生活でも高分子材料化学研究室に所属し、現在はエポキシ樹脂についての研究を行っております。当時3階だった研究室が5階へ移動し、建物内の設備も新しくなっている箇所はありますが、不思議なもので大学の雰囲気は「全く変わっていない!」と言っても過言ではありません。おかげで当時の記憶が鮮明に蘇りました。研究室では二回りも離れた新人学生にも皆さん優しく接してくださり、たまに年齢を忘れることも。合成実験(立ち仕事)が長引いた時に現れる腰痛によって現実に引き戻されませんが。。。

会社の業務と並行しての学生生活は非常に大変なことだと実感しています。体力的な衰えから、夕方以降の実験の時には足をつりそうになったり、折角登校して実験するのに目的物を合成出来なかったりということもしばしば。反面、純粋に実験の楽しさ、面白さという貴重な時間を味わっていることも強く感じます。色々あるけど、やっぱり人生二度目の技大生になって良かった、と。竹中先生には「喜ぶのはまだ早い。博士号取得してから。」と言われそうですが(笑) 楽しむことも忘れずには博士号取得のために精進したいと思います。

同窓会発足40周年記念事業

寄付事業「絵画の寄贈」

同窓会顧問(学外) 熊倉 清一 (建設工学専攻 昭和58年修了)



寄贈絵画「忍草の家」

同窓会は、同窓会発足40周年記念事業として100号サイズの特大な絵画を大学に寄贈しました。事務棟3階の応接室に展示されています。理事会の承認を経て、選定から寄贈までの経緯を説明します。

なお、平成4年の同窓会発足10周年記念事業でも絵画を大学に寄贈しています。これは図書館に展示されています。

〈令和3年12月4日第2回理事会〉

同窓会発足40周年記念事業として絵画の寄贈を大学へ提案したところ、鎌土学長、高橋修副学長、基金・卒業生室から了承をいただけたと報告されました。これを踏まえ、同窓会として正式に絵画寄贈の準備を進めることが承認されました。

〈令和4年1月22日絵画の選定と打合せ〉

選定を一任された磯部会長、芳賀常務理事、熊倉顧問は、人選していた画家の早津剛氏と会うために早津ギャラリー(新潟県魚沼市青島1501-16)へ向かいました。ここは越後三山を一



早津ギャラリー外観



展示室

望できる小出公園の中腹に位置し、早津剛氏が描くかやぶき民家の素朴な風情を鑑賞できる昭和62年に設立した私設の個人美術館です。

早津剛氏は、昭和13年新潟県魚沼市(旧六日町)生まれ、新潟大学教育学部芸術科を卒業し、高校の美術教職員と画家としての両方を遂行し、平成17年に新潟県知事表彰(芸術・文化)を受賞、平成27年には日本民俗建築学会竹内芳太郎賞を受賞してい



寄贈式

ます。

絵画の選定は、現場主義を貫き全国各地のかやぶき民家や町並みを回り描き続けている1,000点を超す油絵からでした。長岡技術科学大学に展示してもらえるなら「日本一の大学だから日本一の富士山の絵は」という感じで、富士山を背景にしたかやぶき民家の絵画が候補にあがりました。その数点の中から100号サイズの特大な油絵を選定させていただきました。

選定の絵画は、「忍草の家」山梨県忍野村忍草で平成14年に1日で描いたものだそうです。大きさは162.0cm×130.3cm(100号サイズ)の油絵です。

〈令和4年3月5日第3回理事会〉

同窓会から寄贈する絵画(100号)は、事務棟3階応接室に設置されることが決まり、大学からはHeartwarmingになれる明るい感じのものが良いとのこと。

心温まる明るい雰囲気のある絵画の希望があったことを踏まえ、画家の早津剛氏と相談しながら絵画を選定したことが報告されました。

絵画購入代金および額装に必要な費用、絵画を吊るすためのピクチャーレールの設置工事費、銘板の取り付け費用、他に移送作業用レンタカー代が承認されました。

その寄贈式は3月29日の午後に、絵画を設置する応接室で行う予定であることが報告されました。

〈絵画の寄贈式〉

令和4年3月29日午前中に、磯部会長と芳賀常務理事は移送作業用のレンタカーで絵画を早津ギャラリーから運び、事務棟3階の応接室に搬入。急ぎピクチャーレールと記念銘板の取り付け作業を行って、劣化防止の亚克力板の額に入った100号の絵画を吊るすことができました。

午後1時30分に寄贈式が絵画を設置した応接室で行われました。

画家の早津剛氏のほか、大学からは鎌土学長、和田理事・副学長、梅田理事・副学長、秋山理事・事務局長が出席され、同窓会からは、磯部会長、芳賀常務理事、熊倉顧問が出席しました。

大学からは心温まる明るい雰囲気のある絵画の希望があったことを踏まえ、早津剛氏は、同窓会と相談しながら1,000点を超す絵画の中から選定したことや、20年前に寄贈の絵画を山梨県忍野村忍草において描かれた思い出やエピソードを語られました。

鎌土学長から寄贈を感謝され、早津剛氏からも絵画の富士山のように日本一の長岡技術科学大学に飾っていただけ国内外の方々から見ていただけることに感謝していると言われました。

会員寄稿

仕事の仕方と健康について

マツダ株式会社 久保 彩佳（原子カシシステム安全工学専攻 平成29年度修了）

本学を修了し、5年が経とうとしています。私は2022年度の初期に興動しましたが、振り返りを兼ねて、社会人になる方向けに自分を過信しないことを頭の隅に置いて、がむしゃらに社会人生活を過ごしてほしいというメッセージです。

1年目の最初、上司に「あなたはプロです。1年目でも2年目でも関係ない。」と言われました。入社後1、2年は、同期は担当として仕事を任せられる中、私は手伝いというポジションでチームをたらい回しにされました。高専卒の同僚（先輩）が駆けずり回っている横で比較され、「院卒の給料泥棒」と言われたこともありました。自分の不甲斐無さに泣きながら家に帰ったのは、1度や2度ではありませんが、かけがえのない人材になってやるというモチベーションに変えました。

3年目、2022年に発売したCX-60の部品設計を任せられました。上司はいつも「ただ強くて壊れない設計を皆がしたら、戦車みたいになる。お客様のために、少しでもコストを抑えた良い車を作ろう。」「設計の仕事は、機能を具体化する仕事だ」と私に教えてくれました。

そもそも設計業務は、「図面を作製し、車両に織り込む(出図すること)」です。単純に聞こえますが、サプライヤさん、現場の組立の方・周辺部品の設計、車両の機能・性能確認で実研（実験&研究開発の部門）と、1部品の図面作製で多くの人と折衝を重ねます。

現場では、「これじゃ組み立てできん。箸棒じゃ(箸にも棒にも掛からぬ)」と言われ、唇を噛み締めて宿題を持ち帰り、サプライヤさんとは、板金技術を知らない状態の私と、材料・板厚、製造過程で壊れないか、品質担保できる

か、安く作製できるかを一から議論してきました。車両の機能・性能確認は、「なぜこの形状で行けると思うのか。根拠を出せ。」と実研に言われ、その根拠が欲しくてお願いしているのに…と、冗談抜きで毎日泣きながら依頼・確認や問い合わせ電話・メールをする日々でした。

これらの確認・調整を以って、図面作製ができます。

常々、在学時代は何度も徹夜したり、卒業・修了間際はもっと忙しかった。今は労働時間も決まっているし、バイトも無いし、もっと頑張れるはず！とっていました。

実際の設計期間は9か月程でした。毎日、不安に襲われ胃痛・頭痛が収まらず、家でも明日は何をするか、やり残しはないかと頭がいっぱいで眠れませんでした。出図後、仕事が落ち着いてからは産業界や病院にもかかり、鬱の診断もされました。今思うことは、過去の栄光に縋らない、難しいときは助けを求め、身を削るような孤独な働き方をしなくても良いよう、身を守る手段・判断を身に付けて欲しいです。

異動の際、部長に「会社にどんなに貢献した偉い人でも、会社生活を終えてしまえば会社は何もしてくれない。健康を犠牲に会社に尽くすことはやめなさい。」と言われました。こういう人が居る組織で、健康且つがむしゃらに働く機会が皆様に訪れることを願っています。



同部署の20代同僚でいちご狩りをした際の写真です。(右から2番目)

経験は繋がっていく

旭鉦末株式会社 吉田 貴則（平成26年度修了 機械創造工学専攻）

在校生・同窓生の皆様、こんにちは。今回は執筆の機会をいただき大変栄誉です。拙い文章でございますが、お付き合い頂けると幸いです。

私は現在、山を爆破し出てきた石灰岩を粒・粉にする仕事に携わっております。それを聞くに珍しい業種で、機械科を卒業してなぜと思うかもしれませんが、実際、卒業生就職先の一覧にも色んな他に分類されておりました。もともと、一つのことに集中するよりも色々な経験を積みたい性格のため、新しい分野に入ったのかもしれませんが、ただ、業務を始めると大学時代の知識が大いに役に立っております。例えば、ボールミルと呼ばれる筒の中に球が入っており、筒が回転することで球と岩が擦れあい粉にする機械があります。そういった機械を扱う上で、機械の仕組みや球の材質、日々のメンテナンスを検討する上で出てくる専門用語や方法などは大学での知識で理解でき、大学では技術者として社会に出るための下地を作ってきたと感じました。

学業以外でも日本酒サークル「しゅがく」で活動したことを活かす機会が多くありました。山で働く人はなぜか酒が強い人が多く、飲む機会も多いです。そういった場で日本酒が飲めることや、しゅがくで酒造りや酒蔵を集めて試飲会を開催した事、長岡のお酒の話は受けが良く、楽しくお酒が飲めており

ます。日本酒好きをアピールしているときさまざまな日本酒をいただくことも多く良い日本酒ライフを満喫しております。

私生活ではこれまでインドアな趣味が多めでしたが、流行に乗ってキャンプと登山を始めました。やってみるとさまざまな道具があり、実際に山に登るよりも道具集めに熱中しそうです。そういうところは機械科の性分なのかもしれません。新潟には日本酒の名前になるほどたくさん山の山があるので、いつか登ってみたいんです。

今回はこの執筆を通して、卒業してからこれまでの歩みを振り返る良い機会となりました。改めて大学での経験が今の自分の手助けになっていると再認識いたしました。このような機会をいただいたことを感謝するとともに、在学生の皆さんが、今しかできない経験をひとつでも多くして卒業されることを祈っております。最後までお付き合いいただきありがとうございます。



登山風景

人生の礎 (VOS)

東日本旅客鉄道株式会社 長橋 優（環境システム工学専攻 平成24年度修了）

長岡技術科学大学の在学、同窓会の皆様におかれましては、益々ご健勝のことと存じます。私は本学を2013年3月に修了して今年で早10年になります。私が本学に進学したきっかけは、高専4年時にインターンシップで1週間学ばせていただいたことでした。その時は生物学科で植物バイオテクノロジーに関するカリキュラムを受講し、院生、学部生とともに楽しく過ごさせていただきました。その時強く感じたのが、長岡技大生のバイタリティー、発想の自由さと、前日の懇親会でドンチャン騒ぎしたにも関わらず翌日には研究に集中し、やるときはやるオンパレードの切り替えの凄さでした。これは豊かな自然に囲まれ、広大な敷地面積を誇るキャンパスだからこそ培われたものであり、きっと首都圏や都会の大学には絶対ないものであると思ったことを良く覚えています。

富山商船高専(現富山高専)の商船学科を卒業した私は、進路を決める際に、周りの友人が船会社を希望している中、長岡技大への進学を決めました。乗船実習時の船酔いがひどく、船員を職業として従事していくことは難しいと考えたことも一因としてありますが、一番はあの時感じた長岡技大生の輝いている姿に憧れたことでした。

進学した環境システム工学科では、友人にも恵まれ、大変楽しい時間を過ごさせていただきました。学内でBBQや研究室、友人宅で鍋など、とにかく自由に楽しんだこと、飲んで騒いで記憶をなくしたこと、研究室にて徹夜

でレジメを作成し、発表練習をしたこと等、まさにあの時憧れた長岡技大生の姿そのものだったと思います。また、所属していた環境リモートセンシング研究室では、航空レーザー測量を用いた森林観測技術の研究を行い、レーザー点群データ活用技術の基本から応用までを学ぶことができました。今思えば本学のモットーであるVOSの精神は本学での経験により自然と培われていくものであるということを実感しています。

私は現在、東日本旅客鉄道株式会社にて、橋りょうやトンネルなどの土木構造物を維持管理する職に就いています。仕事の中でもレーザー点群データを扱う機会があったり、土木構造物をより良くするために新たな検査手法を提案したり、安全安定輸送をお客さまに提供するために本学で学んだ経験とVOSの精神が役立っていることを強く実感しています。

ぜひ在学生の皆さまにも、本学でたくさん学び、たくさん遊び、人生を生き抜くための力とVOSの精神を培ってもらいたいです。最後になりますが、本学の在学、同窓生の皆様のご多幸とますますのご発展を心より願っております。



筆者は下段中央

材料開発と生物の改組

物質材料工学課程・専攻と生物機能工学課程・専攻が融合し
物質生物工学分野・物質生物系が誕生しました！

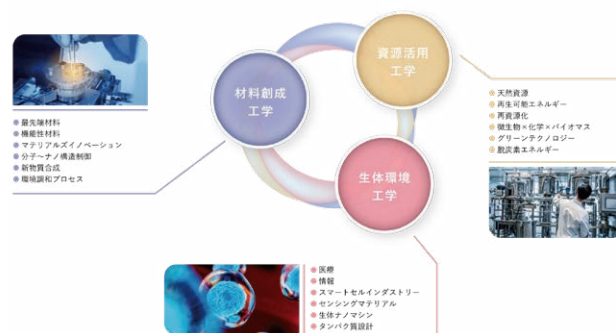


物質生物系長 城所 俊一

同窓会会員の皆様、こんにちは。皆様、既にご承知と思いますが、本学では令和4年4月に改組が行われ、学部は工学課程一つに、修士や博士は工学専攻と先端工学専攻の、それぞれ一つになりました。これは、従来の課程・専攻を廃し、在学中に学生が容易に複数の専門分野を学べるようにするためです。これに合わせ、物質材料工学課程・専攻と生物機能工学課程・専攻とが融合して、物質生物工学分野という教育研究分野になりました。これを主として担当する教員組織が物質生物系です。新分野・系のホームページでは、最新の情報を発信していますので是非ご覧下さい(<https://msb.nagaokaut.ac.jp/>)。また、旧専攻の研究室を元にして、3つの大講座に再編されました(右図)。融合以来、旧専攻の垣根をこえた教育研究の交流や協力が始まっています。

物質生物工学分野では、(1)物理・化学法則や様々な実験データに基づいて原子や分子レベルで起きる興味深い現象を解明し、新しい有用な物質や材料を開発する手法と、(2)40億年の長い時間をかけて進化してきた生物が示す現象を解明し、生命の持つ有用な機能を社会に役立てる手法の、両方を着実に習得し、現在の多様な社会で活躍できる人材を育てることをめざしています。さらに、設定された教職カリキュラムを履修することで、中学や高校の理科の教員免許を取得可能となりました。これによって、今後は、本学で学んだ工学の面白さや重要性を、中学や高校の生徒たちに直接伝えてくれる中学や高校の理科教員も誕生することが期待されます。

振り返ると、1978年、開学とともに材料開発工学課程が設置され、2015年に物質材料工学課程となりました。また、生物機能工学課程は1989年に設置されています。40年あるいは30年以上にわたって、主として高専の物質工学科の卒業生を受け入れ、多くの卒業生・修士生を社会に送り出してきました。これらの二つの課程・専攻が融合するのは、本学では初の取り組みです。同窓会員の皆様には、旧課程・専攻以上に、新設の物質生物工学分野にご支援やご協力をいただけますよう、よろしくお願いいたします。



物質生物工学分野の3つの大講座と主な研究分野のキーワード

●2022年度会計報告

1. 一般会計収支<自:令和4年3月1日~至:令和5年2月28日>

■収入		■支出	
科目	金額(円)	科目	内訳 金額(円)
入会金	5,395,646	事業費	通信・運搬 55,476
雑収入	782		広報費 549,360
(公財)内田エネルギー科学振興財団 助成金	100,000		助成・貸与 683,681
マラソン大会 参加費	84,600		活動経費 5,294,448
同窓の集い参加費	272,000		40周年記念事業 2,151,495
前期繰越金	10,806,116		小計 8,734,460
合計	16,659,144	事務費	会議費 238,910
			雑費 1,870
			小計 240,780
		新規積立	0
		次期繰り越し	7,683,904
		合計	16,659,144

2. 積立金会計収支<自:令和4年3月1日~至:令和5年2月28日>

■収入		■支出	
科目	金額(円)	科目	金額(円)
前期繰越額(定期)	42,000,000	積立取り崩し	0
新規積立	0		
合計	42,000,000	次期繰越額(定期)	42,000,000
		合計	42,000,000

令和5年3月18日 令和5年3月18日
 会計担当 坂田 健太 監事 床井 良徳
 山田 康博

●2023年度会計計画(案)

1. 一般会計収支<自:令和5年3月1日~至:令和6年2月28日>

■収入		■支出	
科目	金額(円)	科目	内訳 金額(円)
入会金	5,500,000	事業費	通信・運搬 100,000
雑収入	0		広報費 700,000
積立金の取り崩し	0		助成・貸与 1,100,000
雑収入	1,000		活動経費 5,500,000
前期繰越金	7,683,904		小計 7,400,000
マラソン大会 参加費	100,000	事務費	会議費 250,000
同窓の集い参加費	300,000		雑費 50,000
合計	13,584,904		小計 300,000
		新規積立	0
		次期繰り越し	5,884,904
		合計	13,584,904

2. 積立金会計収支<自:令和5年3月1日~至:令和6年2月28日>

■収入		■支出	
科目	金額(円)	科目	金額(円)
前期繰越額(定期)	42,000,000	積立取り崩し	0
新規積立	0		
合計	42,000,000	次期繰越額(定期)	42,000,000
		合計	42,000,000

令和5年3月18日
 会計担当 坂田 健太

編集後記

令和4年度は同窓会発足40周年となりました。記念に絵画の寄贈がありました。また同窓の集い、マラソン大会など活動が活発化しております。来年度には大阪にて同窓の集いの開催を予定しております。皆様のご参加を心からお待ちしております。
 引き続き会員の皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

同窓会連絡先

長岡技術科学大学同窓会

〒940-2188 新潟県長岡市上富岡町1603-1
 電話/FAX 0258-46-5505 e-mail dosokai@vos.nagaokaut.ac.jp

同窓会 HP : <https://nut-alumni.sakura.ne.jp/>

Facebook ページ : <http://www.facebook.com/NutAlumni>

住所・勤務先等に変更がございましたら、同窓会HPにてログインしていただき、登録情報の変更をお願いいたします。